

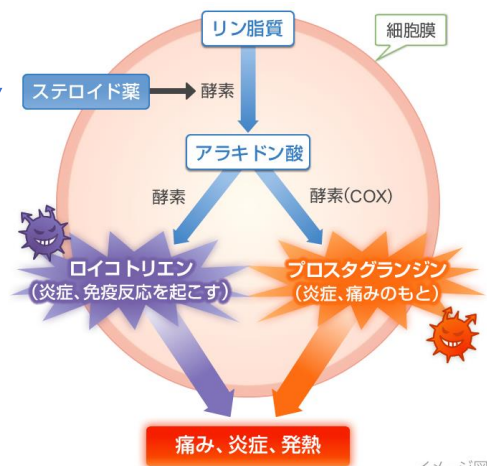
薬剤部 DI ニュース

ステロイド外用剤

ステロイドの主な作用

- ✓ 抗炎症作用：炎症を促す物質の産生を抑制。
- ✓ 細胞増殖抑制作用：炎症反応を引き起こす細胞の増殖を抑制。
- ✓ 血管収縮作用：炎症部の血管を収縮させることで患部の赤みを鎮める。
- ✓ 免疫抑制作用：抗体の産生を抑制。

- 非ステロイド性抗炎症薬の多くは COX を阻害することでプロスタグランジンの生成を抑制
 - ステロイド性抗炎症薬はより上流のホスホリパーゼ A₂ を阻害することでプロスタグランジン、ロイコトリエン両方の生成を抑制
- ステロイド性抗炎症薬の方がより強力な効果を発揮



イメージ図

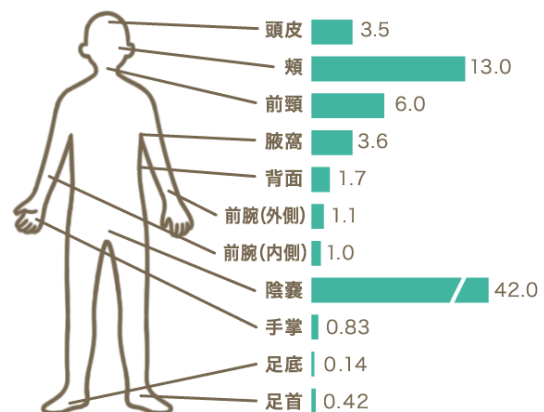
使い方のポイント！！

ステロイド外用剤は、**使用部位**・年齢・症状等を考慮して**強さ**・**剤形**を選択し、**適切な量**をしっかりと塗ることが大切です。

1. 部位によって使い分ける！

ステロイド外用剤は、体の部位によって吸収率が異なります。

吸収率が高い部位には他部位より弱いステロイドを、吸収率が低い部位には強めのステロイドを使用するなどの工夫が必要です。



※前腕(内側)での吸収を1.0とした場合の比率

図：ヒトにおけるヒドロコルチゾンの部位別経皮吸収率

2. 強さによって使い分ける！

ランク	代表的な製剤（成分）
strongest（最も強い）	デルモベート（クロベタゾールプロピオン酸エステル） ダイアコート（ジフロラゾン酢酸エステル）
very strong（とても強い）	ネリゾナ（ジフルコルトロン吉草酸エステル）
strong（強い）	リンデロンV、リンデロンVG（ベタメタゾン吉草酸エステル） * リンデロンVGは抗菌薬配合 メサデルム（デキサメタゾンプロピオン酸エステル）
medium（普通）	ロコイド（ヒドロコルチゾン酪酸エステル）
weak（弱い）	プレドニゾン（プレドニゾン）

* 青字は院内採用あり

3. 剤形によって使い分ける！

剤形	適応病変	長所	短所
軟膏	びらん・潰瘍を含むあらゆる病変	皮膚保護作用、皮膚 柔軟作用がある	べたつく てかてか光る
クリーム	乾燥した患部 湿潤面、滲出性皮疹には不向き	べたつかない 水で洗い流せる 浸透性が高い	刺激性がある
ローション・ゲル	被髪頭部などの有毛部の病変・虫刺症 湿潤面、滲出性皮疹には不向き	使用感がよい 伸びがよい	刺激性がある

4. 適切な量を塗る！

ステロイド外用剤を塗布する分量の目安としてFTU(フィンガーチップユニット)が使われます。1FTUは大人の手のひら2枚分の面積に塗布するのに適した分量の目安です。

擦り込むのではなく、皮膚の皮溝に沿って横方向に優しく伸ばして塗ると効果的です。



参考文献：第一三共ヘルスケア HP、マルホ HP、みんなの皮膚外用薬「南江堂」

(薬剤部 豊留)